

平成二十七年二月吉日一部改訂版作成

究極の光の一筋を

降ろす大天命（改訂）

高嶋 善三郎

目次

地球の次元上昇を担う神人の意識と肉体の変革	3
神命達成の道は、人格磨きから始まる	5
宇宙神と直接交流し、自らを開発する	7
直観力を完璧に身につける	7
チャクラを開く	9
ひらめきに添って能力が現われる	10
世界平和の祈りと呼吸法の違い	11
呼吸法の偉力	12
この肉体界の人類に到達するエネルギーを確信する	14
究極の光の一筋を降ろす大天命	14

新年祝賀祭で行った呼吸法

お願い

より分かりやすくするため、ご感想があれば、お聞かせください。

例えば、この点について分かりにくいとか、どの点が心に響いたとか、新しい疑問があるなど、何でも結構です。お聞かせください。

次の連絡先にお問い合わせ致します。

(電話) 〇四―七一二二―三七五二

(アドレス) zensan@peach.ocn.ne.jp

一部改訂内容は、呼吸法の仕方について昌美先生の本年新年祝賀祭で御指導された内容等を最後のページに掲載しました。

究極の光の一筋を降ろす大天命

地球の次元上昇を担う神人の意識と肉体の変革

地球の次元上昇と、神人の意識と肉体の変革のプロセスについて、『白光誌』に時間の経過とともに説明されています。それを時間追って見てみましょう。

2007年1月号では、真実の自分と出会う時人類すべてが自然と変化する。その時人類は自らの眠りから目覚め、燦然と輝く光明が自分の肉体すべてを取り巻くのである。これは初めに10万人の神人たち、そして意識レベルの高い人たちから次々と引き起こされると昌美先生は解説されています。

「真実の自分と出会う時人類すべてが一変するー2007年1月より、何が起こるか私にもわからない。しかしそれは自然に起こるのだ。宇宙の大きな力が生命力が地球を取り巻き、次元上昇を試みるのだ。そして人類は自らの眠りから目覚めるのだ。燦然と輝く光明が自分の肉体すべてを取り巻くのである。(略)

これは初めに10万人の神人たち、そして意識レベルの高い人たちから次々と引き起こされる。まずは自分自身の神性そのものに出会うのである。究極の真理そのものを体験するのである。」

(『白光誌』2007年1月号18ページ)

さらに、2008年10月号で次のようにも言及されています。

地球の次元上昇は、日本から始まり、まず意識変革が生じることに伴って、自ずと肉体の変革も起きる。自分の力で、自分の我即神也の声で、病気も環境も状況も変えることが出来る。今そのプロセスの序奏が始まったばかりである。まずは神人たちがその証となるのである。

神人の中から10分の1の千人位の人々が実証されたら、クリティカル・マスによって、いよいよ全人類が本格的に目覚める時が来ると言われています。

「21世紀、全人類が意識上昇、次元上昇する時が来たのである。それは日本から始まる。

まず意識変革が生じることによって、自ずと肉体の変革も起きる。自分の力で、自分の我即神也の声で、病気も環境も状況も変えることが出来る。今そのプロセスの序奏が始まったばかりである。まずは神人たちがその証となるのである。

神人の中から10分の1の千人位の人々が実証されたら、クリティカル・マスによって、いよいよ全人類が本格的に目覚める時が来る。(『白光誌』2008年10月号)

2008年10月号では、神人たちは、今日まで堅く閉ざされていた宇宙神に直結する道への扉を少し開いたのである。

神人たちの出現により一般の個人でも直接宇宙神とコンタクトが出来る時代に入りましたのと言及されています。

「 神人たちは、今日まで堅く閉ざされていた宇宙神に直結する道への扉を少し開いたのである。

神人たちの出現により一般の個人でも直接宇宙神とコンタクトが出来る時代に突入したのである。このことは、二十一世紀の時代によってはじめてなす遂げられてゆく、全人類皆即神也の画期的な真理の目覚めの時代が到来したということである。」『白光誌』2008年10月16ページ)

そして2011年7月号では、神人は、宇宙神に直結する道への扉が見事に開かれて、ある日突然、大きな宇宙神の力と結びついた。そしてドアが開かれたことにより、人類の多くは、最初は半信半疑であったのが次第に真理に目覚めはじめ、自らの意志でもあって、そのドアから一歩踏み出し、ついに神界の大計画を垣間見るのである。

今まで人類の前には“不可能”という大きな壁が立ちばかり、人類は自らの存在を価値がないものと思ひ込み、信じ込んでいた。がこれからは全く異なる世界が現われるのだと言われています。

「 実のところ、神人たちも初めから「自分が世界を変えてゆくのだ」という大使命感に裏打ちされて、日々祈っていたのではなかった。祈りや印も、個人レベルのものとして謙虚に受け止めて、祈りや印を通して自らが向上し、大きく変わってゆくことの身に集中していた。それがある日突然、大きな大きな宇宙神の力と結びつき、ドアは見事に開かれていったのである。神人は、歴史が変わるその瞬間、適切な時に適切な場所に居合わせるよう、今生

に誕生してきていたのである。

ドアが開かれたことにより、人類の多くは、最初は半信半疑であったのが次第に真理に目覚めはじめ、自らの意志でもあって、そのドアから一歩踏み出し、ついに神界の大計画を垣間見るのである。

今まで人類の前には“不可能”という大きな壁が立ちばかり、人類は自らの存在を価値がないものと思ひ込み、信じ込んでいた。がこれからは全く異なる世界が現われるのだ。」『白光誌』2011年7月12ページ)

そして2014年3月号では、私たちは宇宙神の根源に直結し、我即神也の自分が表に出て、もう肉体感情にコントロールされない。すべてが成就する世界が、自分自身の魂によって出たとされています。

ここで言われている魂とは、肉体界に天下ってきた分霊の相(すがた)即ち、分霊から幽体迄の部分です。幽体は私たちの過去世からの潜在意識を記録している場所であり、その奥に神意識が存在する場所でもあります。小さな範囲しか考えられない顕在意識の肉体我が、想念の波を張りめぐらしてしまつて縦に流れてくる神智(神意識)をささぎり曇らせてしまつていたのが、「我即神也」の究極の真理にそつて浄められ(整理され)、宇宙神の根源に直結され、私たちの魂が神意識そのものとなって、現われて来る段階になつたということでしょう。(拙書『把われを放つ』17ページと『神意識の顕現』5ページを参照)

「 本日、五井先生は皆様に「宇宙神の根源に汝らの魂は直結した」

とおっしゃいました。ということは、我即神也の自分が表に出て、もう肉体感情にコントロールされない。すべてが成就する世界が、自分自身の魂によって表に出たということなのです。

今までは、魂の我即神也の自分が奥へ引っ込んでいたのです。

そして苦しい、悲しい、恐怖だ、怖い、不可能だ、出来ない、駄目だという感情の想いで自分がコントロールされ、この肉体は操られてきた。ところがここにいる人、世界中で祈っている人は、我即神也が自分をコントロールしている、ですから、不可能などない、というのが当たり前になっているのです。『白光誌』2014年3月16ページ)

以上次元上昇と私たちの意識と肉体の変革の関係をみてきました。

私たち神人の魂が宇宙神の根源に直結したことは、いよいよ始まる、この地球の次元上昇の準備が整ってきたということでしょう。

神命達成の道は、人格磨きから始まる

2014年7月6日、昌美先生の指導のもと私たちは、人類を代表して、究極の光の一筋を降ろす大天命を担ったとの宣言とともに印を組み、究極の光の一筋を降ろさせていただきました。

この大天命を担うということとはどういうことでしょうか。光さえ降ろせばよいということでしょうか。

この疑問に答えるのに、参考になる昌美先生のお言葉があります。

「「究極の真理」そのものの実践が神人には不可欠なのである。それは誰が見ても「吾は神を見たる」と思わず思わせるだけの自分を磨き高め上げ、神そのものに限りなく近づき現わしてゆく生き方そのものである。」

即ち、自分はもう決して否定的な言葉を語らない、と強く自分を戒め、コントロールできる強い意志を創り上げてゆくことが必要なのである。そして自分が語る言葉は常に人を愛し、人を励まし、人を歓喜させ、人の存在そのものを高め上げ、敬い、人の幸せを願うことのみ、その言動を通して無限なる光、エネルギー、パワーを注いでゆくのである。

このように、自らの意識を自分へのみ向けずに他の幸せや喜び、他への感謝に向けることにより、自我を乗り越え、欲望をコントロールしやすくなるのである。そしてついには自らに内在せる神聖意識に気づき、目覚めてゆくのである。それこそが「我即神也、人類即神也」の究極の真理そのものである。『白光誌』2013年2月10ページ)

究極の一筋の光を降ろすとともに、誰が見ても「吾は神を見たる」と思わず思わせるだけの自分を磨き高め上げ、神そのものに限りなく近づき現わしてゆく生き方が必要であると言われています。そして具体的方法を示されています。

ここで言われている方法は、五井先生のお言葉で言えば、肉体界の誤てる想念が運命となって現われて消えてゆくと同時に自己の本心が現

われてくるのを直視する、「実相直視の行」と、愛と調和と美の世界を積極的に現わす、「実相顕現の行」をバランスよく実践していくことでしよう。それをさらに分かりやすく具体的に次のように説かれています。

自分ももう決して否定的な言葉を語らない、と強く自分を戒め、コントロールできる強い意志を創り上げて、そして自分が語る言葉は常に人を愛し、人を励まし、人を歓喜させ、人の存在そのものを高め上げ、敬い、人の幸せを願うことのみ、その言動を通して無限なる光、エネルギー、パワーを注いでゆくことを実践する。このように、自らの意識を自分へのみ向けず他への幸せや喜び、他への感謝に向けることにより、自我を乗り越え、欲望をコントロールしやすくなるのである。そしてついには自らに内在せる神聖意識に気づき、目覚めてゆく。それが「我即神也、人類即神也」の究極の真理そのものであると解説されています。

五井先生の次の言葉からもその大切さが分かります。

「宗教には二つの面があります。自分を磨いて自分を立派にする面と、人の為にくす面と二つある。それを往相と還相というのです。神我一体となろうという姿が往相、人を救う菩薩行が還相。この二つが伴われなければいけませんね。それは同時に出来る事なのです。往相と還相が一体になった人が、本当に立派な人なのです。」

やっぱり自分が立派になることです。それは人のためじゃなくて自分のためです。永遠の生命なのだから、どうしたって立派にならなければならないようになっていく。いやでも応でも、神の

子の姿をそのまま現わさせようと、守護神がさせようとしているんです。それをごまかして逃げていけると、パンとやられるんです。大病させられるとか、貧乏させられるとか、なってゆくのです。ですから、自分のほうから進んで立派になるように、進んで祈るように、神の方へ神の方へ、神の心の奥深くまでどんどん入ってゆく。

神の奥深い心は何かというと、愛なのです。美であり、真であり、善です。寛容の心、思いやりの心、清々しい心、青空のような心、なんの扱われもない心、愛一念の心ですよ。その奥の奥のほうまで、入らなければ、ただ単なる理屈になってしまう。

同時にやらなきゃ。神の心奥深く、愛一念の心の中に入ってゆくこと、人の救いに役立つこと、この二つをこれからやりましょう。楽しみですよ。」『悠々とした生き方』210ページ)

私たち人間に、いやでも応でも、神の子の姿をそのまま現わさせようと、守護神がなされている。神の奥の奥の心、愛、美、真、善を現わさせようとなさっている。それをごまかして逃げていけると、パンとやられる。大病させられるとか、貧乏させられるとか、になってゆくと言われています。

神の子の姿をそのまま現わすことについては、拙書『我即神也の神を観じる』でも触れておりますように、神の子の本体を現わすためには、守護霊守護神と一体になることが不可欠なのです。

守護霊守護神への感謝の心を常に想い、「実相直視の行」「実相顕現の行」をバランスよく実践してこそ、守護霊守護神と一体となり、神の子の姿（本心）を現わせ、守護神が自分の中に一つに入ってしまう。そして直霊、宇宙神とパッと一つにつながってしまうのです。

そうなること、自由自在、何も自分の想いが無い、そのまま動くことが、みんな神のみ心そのままになっているというふうになる。そういう人を如来だと五井先生は言われているのです。

五井先生のお言葉をお借りすれば、究極の一筋の光を降ろす大天命を完うするためには、常に自分の言葉、想念、行為を反省し、神の心の奥の奥へ入ってゆき、無限なる愛、美、真、善を現わそうと努力することが必要であるということでしょう。それと同時に人のお役に立つよう努力するということでしょう。言い換えれば、真に人のお役に立つには、神の心の奥の奥へ入らなければ、実現できないとも言えます。

宇宙神と直接交流し、自らを開発する

ここで、守護霊守護神への感謝の心を常に想い、「実相直視の行」「実相顕現の行」をバランスよく実践するにあたり、留意しなければならぬことがあります。消えてゆく姿として、「実相直視の行」を実践してゆくとき、消えてゆく姿に想いを向けないということと、それを回避するため光（肉体を動かしている生命と、宇宙に充滿している生命とをミックスした光）を常に降ろしておくことが必要なのです。世界平和の祈

りにより光を降ろすのか、呼吸法により、降ろすことになりませんが、常に自分の周りに光を降ろしておくことが重要です。この創造的な光が存在しないと、この二つの行がスムーズに実践できないのです。

このように宇宙神と直接に交流し、人類一人一人が自らの直観力を磨き、本来の力を取り戻し、自らの肉体を開発する（チャクラを開く）ことよって、自らの生命力を高めてゆけばよいと言われています。

「この霊界の光と交流できる場所は肉体の人間のチャクラです。チャクラを通して交流が行われます。」

肉体の生命力は本来、宇宙の大生命と出会うと自然に、自らの失われていた力を取り戻し、光を放つようになります。これは上がってしまったバッテリーを充電すれば、再び力を回復し働き始めるのと同じです。

このようにして、人類一人一人が自らの直観力を磨き、本来の力を取り戻し、自らの肉体を開発する（チャクラを開く）ことによって、宇宙神と直接に交流し、自らの生命力を高めてゆくのです。宇宙神のオーラ（大生命力）は異彩を放ち、究極なる光を我々に送ってくれるのです。（『次元上昇』86ページ）

直観力を完璧に身につける

人類一人一人が自らの直観力を磨き、本来の力を取り戻し、自らの肉体を開発する（チャクラを開く）と言及されていますが、この直観力は私たち神人がそれを意識して、磨いていかなければならな

いものでしょう。

そのことについて参考になる昌美先生のお言葉があります。

「直観力とは、五感を超えた感覚です。味覚、聴覚、視覚、嗅覚、知覚を超えた天のひらめきです。常識を超えた世界からやってくるメッセージです。常識に把われると、必ず失敗します。得か損か、高いか安いかわ、良いか悪いかわ、効率的か否か、新しいか古いか、きれいかわか汚いか……。これらの観念をいや基準を超えたところからやってきます。

これらのメッセージは、ひらめきは心に直に訴えてきます。そのものを手にした途端に気分が悪くなったり、嫌いになったり、不安に駆られたり、不吉な感覚に襲われたら即、やめるべきです。また手にして心が明るくなったり、踊りたくなくなったり、わくわくしたり、晴れがましい気分になるものなら、よい波動のものであります。これらの直観力をもっと鋭く完璧に身につけるには祈る必要があります。

・・・まず、第一に自らの想念に気をつけることです。自らが放つ想念と波長が合う、周りの想念を引き寄せてくるからです。

〔『次元上昇』106ページ〕

「幸せな人生を築き上げてゆきたいと志す人たちは、直観力を身に修めてゆかねばなりません。そのためには、日頃の生き方が大事です。日頃の想念こそ、自分の人生を左右する、幸、不幸を分かつ一大原因なのです。

人類にとって物が何で必要なのでしょうか。物そのものが必要

であると同時に、物が完成するそのプロセスがもつとも大切である、ということを知り、人類に気づかせるために、教えるために物が必要となるのです。

すべての物事において、原因はもとより、プロセスもまた結果を左右するということに気づいてゆかねばなりません。プロセスそのものも結果を導いてゆくのです。一瞬一瞬の想念こそが自分の人生そのものであることを知らねばならないのです。

否定的想念や言葉は、これからは死語にしなければなりません。それを人類一人一人が完全に守れば、自然破壊や天変地変は避けられます。一人一人が自分の想念に責任を持てば、世界は必ず平和になるのです。

一瞬一瞬のプロセスに愛があればよいのです。愛を与え、感謝を注げば、それで充分なのです。決して難しいことではありません。大変なことでもなければ、面倒なことでもないのです。ただ自分の語る言葉に愛を与え、感謝を注ぎ込めば、すべては完璧にうまくゆきます。完全に調ってゆきます。幸せで、平和で、調和に満ちた人生が結果としてもたらせてくれるのです。〔『次元上昇』108ページ〕

「真理に目覚めたものは必ず救われます。なぜならば、そういった否定的想念、暗黒的想念の波動を見極める直観力が大いに養われていくからです。そればかりではなく、自らが放つ波動が神の波動、光の波動であり、強力なるパワー、エネルギーを持ち、宇宙神の光の一筋そのものであるため、いかなるマイナス波動から

も決して影響は受けないのです。自らの放つ想念、光、エネルギーにより、自らの運命が悪くなるのを見事に完璧に妨げるのです。『次元上昇』100ページ」

以上整理すると、直観力とは、五感を超えた感覚である。味覚、聴覚、視覚、嗅覚、知覚を超えた天のひらめきである。常識を超えた世界からやってくるメッセージである。

これを身につけるには、真理に目覚め、祈りが必要であり、自らの想念に気をつけることである。自らが放つ想念と波長が合う、周りの想念を引き寄せてくるからである。

そしてすべての物事において、原因はもとより、プロセスもまた結果を左右するということに気づいてゆかねばない。プロセスそのものも結果を導いてゆく。一瞬一瞬のプロセスに愛を与え、感謝を注いでゆく。この一瞬一瞬の想念こそが自分の人生そのものであることを知らねばならない。否定的想念や言葉は、これからは死語にしなければならぬと言及されています。

チャクラを開く

自らの肉体と宇宙神とをつなぐ重要な働きをするチャクラについて、みてみましょう。

チャクラは、①車輪のように回転して渦巻く肉体のなかのエネルギーセンター。全身へエネルギーを分配して維持するという特別な役割をも

つ。②私たちの全体性のなかの感情・肉体・霊・思考をつなぎ合わせるための機能もっている。

肉体の中の七つの主要なエネルギーの渦巻きの働き等は、次のとおり。**第七チャクラ**(頭頂)あらゆる霊的かつ宇宙的な情報とエネルギーをとりいれて、今世での霊的なゴールやこの世界で学び達成すべきことを統制するところ。

第六チャクラ(額の下のほうの眉間にあり、「第三の目」または「額のチャクラ」とも呼ばれる)透視や自己イメージ、目に見える現実の認識を支配し、自分をとりまく世界に自分自身の観念と真実をどのように投影していくかを規制する働きをもつ。

第五チャクラ(喉の中心にあり、「喉のチャクラ」としても知られる。)コミュニケーションや自己表現、創造的な表現のエネルギーを調整する。

第四チャクラ(胸の中心にあり、「ハートチャクラ」とも呼ばれる。)自己と調和的なエネルギーだけを引き寄せて純化する働きや、自己愛、人々との愛、自己価値、または自分という存在としての気づきと体験、ほかの人々の本質に対する賞賛をつかさどる。魂の座する場でもある。

第三チャクラ(太陽神経叢の中心あるいは横隔膜周辺にあり、「パワー・チャクラ」や「意志のセンター」「太陽神経叢のセンター」とも呼ばれる。)ほかの人へのパワーやコントロールと同時に人からのコントロールをゆるすこともふくむ。聖なるパワーなどすべてのパワーと主権を保ち、エネルギーをコントロールする働きをもつ。また、すべての意志(それが聖なる意志であろうと下位の意志であろうと)や、社会的な生活や目標、人のためにとる行為、感情の活発な表現、自己を

敬い尊ぶこと、さらに「エゴのセンター」などもこのチャクラによって統括される。

第二チャクラ(おへそと股間のちょうど中心にあり、「仙骨のチャクラ」とも呼ばれる。) 性的で官能的なエネルギー、自分を慈しみを人々を慈しむこと、感情という感覚的な資質、霊的感知力、女性の「創造センター」を調整する。

第三チャクラ(尾骨の最下部にあり、「ルートチャクラ」とも呼ばれる。) 安定あるいは不安定のエネルギーを保持する。つまり直観や地球とのつながり、肉体との関係性、肉体の健康、食物や住居、衣服、お金(少なくとも通貨交換システムのある文明では)のような生活のために必要なもの、可能的なもの、またはもともと原始的な本能的情緒反応などをつかさどる。(「プレアデス 覚醒への道」 407ページ)

チャクラを開くことにより、感情・肉体・霊・思考が一つになり、自分の感情をコントロールできるようになる。そして苦悩も病気も老化もなくなるのであるということでしょう。七つのチャクラを上から下へなご順番に一つずつ意識して、光を降ろすと、より効果があることでしょう。

ひらめきに添って能力が現われる

宇宙神と直接交流し、自己を開発すると、ひらめきになってゆへのか。ひらめきになるのか。『業先生は次のように解説されています。』

「いずれ神人と称される人々は、近々すべて全員筆舌に尽くせぬほどの知的光明を体験し、閃光のように彼らの意識に対して究極の真理の全容が明らかにされる。彼らが願おうが願おうまいが、宇宙の大進化大創造に参入した神人たちはみな光の中に住し、自らの魂は神と全く同じ不死であることを知るに至るのである。(略) 究極の真理に目覚めた者は、常に最初にひらめきがあり(無限なる直観)があり、その能力は努力によって現われるのではなく、素直さ、無邪気さ、明るさ、自由な心、自ら信じる心から生じてくる。(略)」

このように神人たちがまず率先して真理を自らの上に顕現させてゆくことによって、それらの生き方が宇宙空間に蓄積され、それが共磁場となって後に続く神人たちの大いなる助けになるのである。『白光誌』2002年12月20ページ)

このお言葉のうち「いずれ神人と称される人々は、近々すべて全員筆舌に尽くせぬほどの知的光明を体験し、閃光のように彼らの意識に対して究極の真理の全容が明らかにされる。彼らが願おうが願おうまいが、宇宙の大進化大創造に参入した神人たちはみな光の中に住し、自らの魂は神と全く同じ不死であることを知るに至るのである。究極の真理に目覚めた者は、常に最初にひらめきがあり(無限なる直観)があり、そのひらめきに添って新しい能力が現われる。その能力は努力によって現われるのではなく、素直さ、無邪気さ、明るさ、自由な心、自ら信じる心から生じてくる」は心に刻んでおく必要があります。

また昌美先生は、この生き方が宇宙空間に蓄積され、それが共磁場と
なつて後に続く神人たちの大いなる助けになるのであると解説されて
います。

世界平和の祈りと呼吸法の違い

光を降ろすのに、世界平和の祈りによるか、印や呼吸法による方法が
ありますが、二つには、次のような違いがあります。

世界平和の祈りでは、救世の大光明の中、守護霊守護神の光のエネルギーに乗り、自分の本心の座に昇り、霊界に降ろされていた宇宙神の究極の光とひとつになり、そこから肉体界に降ろされていたのに対し、呼吸法は、直接肉体界に降ろされる違いがあります。

1994年7月24日富士聖地において会場をつめつくした祈りのメンバーそれぞれに直霊神がびったりとよりそつて、我即神也の印を授けてくださったことにより、それが可能になったといえます。

究極の光は祈りや印や呼吸法等を通じて神人の周りと富士聖地に降ろされているのです。神人は纏わりつく業想念をその光により浄め、「光が燦然と灯された安全な場所、ゆつくりと自分自身を磨き高めあげてゆけばよい」と昌美先生は説明されています。

「すべての人間を魅きつけ「吾は神を見た」と思わず思わせるその力は、魂の輝きのみです。オーラです。光です。(略)

白光、黄金、紫金に光輝くオーラ。人々の心を慈しみ、愛、喜びで包み込むオーラ。人々の心の束縛を解き放ち、自由に生きる

力を与えるオーラ。一瞬の間に人々の罪をゆるし、汚れを潔(きよ)めてしまうオーラ。人々の否定的思考を瞬時に消し去るオーラ。そのオーラは物質世界には存在し得ない色です。

オーラに耀く聖なる人は存在するだけでいいのです。何の行為も必要ありません。説教も言葉も必要ないのです。(略)

このオーラの光は宇宙の究極から発せられています。この宇宙の究極から発せられた光は、地球の人類にも霊界を通過して直接ではないが働きかけています。そして人類はその光を常に浴びています。

人類は本来神そのものです。宇宙神の一部です。宇宙神の働きの一つでもあります。人類と宇宙とは全く一つに結びついています。それは光(オーラ)によって完全に結びついています。

宇宙の究極からの光を地球人類は直接受け取ることは決してありません。宇宙の究極からの光は霊界に燦然と降り注ぐ光です。そして霊界において止まっています。なぜならば光が強すぎるからです。そして霊界から直接発せられる光を地球人類は受け取っているのです。(略)

宇宙神との直接交流こそ最大なるものです。だが、普通ではあり得ません。しかし宇宙神より、世界平和の祈りのグループ(白光真宏会)に地球人類の救済を委ねると、決定されて以来、究極の真理が我々に降りたのです。普通では決して地球上に届かない宇宙神の光の一筋を降ろすことに成功したのです。そのことにより、富士聖地は宇宙神のオーラ(大生命力)につつまれているの

です。」「(『次元上昇』86ページ)

呼吸法の偉力

呼吸法の偉力については、昌美先生の法話『白光誌』の2007年12月号(で呼吸法の印で詳しく述べられていますので、それを分かりやすく整理しますと、次ぎのとおりです。

●呼吸法による印とは、宇宙の生命力、気、パワーを呼吸し、それらを直接、自分の肉体を構成している細胞の中に取り入れることで、調和した肉体を維持してゆくものである。

●本来、我々の肉体は意識しなくとも、自然に呼吸をし続けている。その呼吸の眞のあり方を体得できれば、苦悩も病氣も老化もなくなるのである。それを我々が自覚することにより、「気」(宇宙子)は自然に自らの生命を維持してくれ、かつまた、病気を癒してくれるのである。

●呼吸法による印により、自分と宇宙神とが強くと結ばれてゆく。そして大気中の宇宙生命エネルギーを深く吸い込むことによつて、それらは細胞の一つ一つに深く浸透しつづけ、今まで体内にいつぱい蓄積されていた毒素や疲労素、その他の化学物質などが体外に排出されてゆく。

●我々の呼吸法による印は、単なる呼吸法とは全く異なるのである。この特別な印を組むことにより、生命エネルギーの取り入れ方が異なってくるのである。そのためにも印を組む前に瞑想し、心の中で宇宙に宣言する。その自らの印により、宇宙神と全くとつながることが、最も

重要なことなのである。

●自らの意識を宇宙神と一体となることに集中させ、限りなく沢山の光、たくさん生命エネルギー、パワーを体内に吸い込むことが大切なのである。それによつて、我々の体内の一つ一つの細胞が発しつづける波動エネルギーが高められ、その振動数は増加し眠っていた細胞の能力が高められてゆく。

●呼吸とは即ち、祈りである。人類はみな、知らずに祈っているのである。祈りつづけているのである。この祈りを通して天と強く結ばれているのである。

●この本来の呼吸方法、祈りに気づいた者から順に、病氣や不幸、あらゆる悩みや困難から解放されてゆく。なぜならば、呼吸＝祈りそのものが、宇宙神と自分自身を一つに結びつけ、自らの神聖さを自覚めさせ、その本来の無限なる能力を発揮せしめてゆくからである。

●すべては自分次第である。永遠に続く流れの中ですべての瞬間に自らの無限なる可能性が含まれているのである。我々神人はまさに今この歴史の時点で人類に先駆けて輝かしい人生を自らが創造していることを証明する天より選ばれし人々である。だからこそ五井先生より祝福されし神人なのである。

ここで言われている呼吸法は、呼吸法による人類即神也の印と、現在毎朝私たちが神事として行っている、手を挙げて心の中で「我即神也」と唱えながら、息をいつぱい吸い、それを止めて「○○○○」(自分の名前) (即神也) 成就「そして「人類即神也」と唱えながら息をすべて吐き

出す方法、そして手などを挙げないで、行う呼吸法があります。

これらの呼吸法のうち、最後のものについてお薦めしたいと思います。どこでも行うことができ、また、手などに支障があっても平易にできる利点があります。

この呼吸法を使って、光を降ろす方法は、既に昌美先生によって示されています。

特に留意する点は、「我即神也」と唱えながら息をいっぱい吸い、成就と唱えながらその息を止め、心の中で、1から7までカウントしてそして「人類即神也」と唱えながら息をすべて吐き出していく呼吸法です。

呼吸法に慣れてくれば、息を止めてからのカウントを15まで伸ばしていけば十分だそうです。そして毎朝15分間程度するものです。

七つのチャクラ一つずつに意識をおいて、上のチャクラからまたは下のチャクラ順番に呼吸をしていくのも、一つの方法でしょう。

ここで、なぜ呼吸を止めるのかですが、これが大変な意味を持つのです。昌美先生の解説によると、「宇宙を遍満するエネルギーと肉体のエネルギーがミックスされ始めてこの肉体界の人類に到達する、即ち肉体界のすべてを癒し、創造する元になる創造エネルギーとなる」とのことです。

このことを認識して、この呼吸法を実践していくと、自分の家でも電車の中であろうが、何処でも一人で実践できるもので、自分の周りも富士聖地にこのエネルギーを降ろすことができるというものです。

四次元の富士聖地は言うまでもなく、このエネルギーを降ろすことにより、私たちは霊体半分、肉体半分になり、どんな道も光明の光で通り抜けることができているのです。

「音楽を聞きながら深く息をしてください。吸って吐く息を通して宇宙エネルギーと交換するのです。自分の肉体のエネルギーに宇宙のエネルギー、光を入れ込んでミックスして初めて世界人類に到達するエネルギーとなります。それが出来るのはここしかない。

五井先生が皆様に祝福を送っておられます。もっと沢山受けとれるようになります。今ここは四次元に完璧に入っており、皆様は霊体半分、肉体半分の状態になっています。ですから不可能はない。どんな道も光明の光で通りぬけられるのです。どんな人の心も、あなたの光明の光で癒してあげられるのです。すべては自分に返ってくる、その喜びが、歓喜が、幸せが、すべてが……

『白光誌』2013年12月号16ページ)

この呼吸法の意義や仕組みをはっきり把握することが大切になります。また、「私〇〇〇〇(自分の名前)は、人類を代表して、究極の光の一筋を降ろす大天命を担った」宣言して呼吸法をやることも大きな効果を得ることが出来ます。

勿論他の方法、呼吸法による我即神也の印、マンダラも効果があります。ポイントは呼吸の停止し、宇宙を遍満するエネルギーと肉体のエネルギーをミックスするという意識にあります。

世界平和の祈りも、この点に留意してやりますと、いままでやってきた以上に深い統一ができます。

この肉体界の人類に到達するエネルギーを確信する

呼吸法の偉力について、私の体験をお伝えしたいと思います。

私は、光をいかに容易く降ろせるか、いろいろな方法を試しました。

ある日、先ほど触れました「宇宙を遍満するエネルギーと肉体のエネルギーがミックスされ始めてこの肉体界の人類に到達する、即ち肉体界のすべてを癒し、創造する元になる創造エネルギーとなる」という昌美先生のお言葉に触れ、ひらめきとして「これだ！」と心の内側から、ひびいてきました。

早速毎朝実践しました。最初7カウントから始めました。意外とやり易い、呼吸と停止カウントに意識が集中することができ、気がついた時、時計を見たら1時間経っていました。

これができる限り毎朝やりました。この呼吸法に慣れてくると、停止カウントも徐々に長くなり、また、電車の中でもどこでも時間があれば、容易くできるようになりました。

その結果私はどのようなかといいますと、恐怖心や怒りなどマイナスの感情はほとんどなくなったと思えました。また人との関係でそれを感ずるも、一瞬で感じなくなる、消えてしまったという感覚になるのです。降ろされた光のおかげだと確信できました。

究極の光の一筋を降ろす大天命

究極の光の一筋を降ろすことについて、改めて整理してみましよう。

地球という物質世界を、人間も肉体をまとめて、物質体として地球と同化し、共に、更に微妙な波動体にさせ宇宙の先輩星との大調和をさせようとしている、別の言い方をすれば、全人類の意識を上昇させ、地球を次元上昇させようと言われる宇宙神のみ心を顕現するということでしょうか。

「現在、肉体人間として地球に存在しているのは、地球という物質世界を、人間も肉体をまとめて、物質体として地球と同化し、共に、更に微妙な波動体にさせてゆくことが、進化の大眼目となるのであります。

人間が物質的人間として生活しながら、しかも生命そのものの微妙な波動動として、地球の波動をも、微妙に霊化してゆかなければならないのです。

現在はその過程にあって、科学の発明発見は、地球の働きを、本来の微妙な波動の働きに還元せしめて、宇宙の先輩星との大調和をさせようとしているのですが、それは地球人類の背後から、神の智慧・能力を使って様々な発明発見をさせ、科学の発展を促進させている、守護の神霊の心の中でありまして、当の肉体人間はそういう深い意味を知らずに、科学の道を進んでいるのであります。」(『白光誌』1976年9月10ページ)

この大天命を完うするためには、私たちはまず感情想念をコントロールすることでしょう。感情想念をコントロールすることは、恐怖心や怒り、

悲しみなどの自分の感情を抑え込むということではありません。他の人のそれらの感情を感じても、恐怖心や怒り、悲しみなどの感情に把われない、すべて即座に光の中に流すということです。そしてすべての感情は、光により感謝、喜び、愛おしさ、幸せ、感動などの感情に変えてゆくことでしょう。私たちは宇宙神の根源に直結し、我即神也の自分が表に出て、もう肉体感情にコントロールされない。すべてが成就する世界が、自分自身の魂によって出たと言われています。意識して取り組めば、必ず感情想念をコントロールできるはずです。

そして次に、自分を生かしてください。守護霊守護神に感謝の心を常に想い、自分を磨き高め上げ、神そのものに限りなく近づき現わしてゆく生き方をしてゆくことでしょう。例えば自分はもう決して否定的な言葉を語らないなど、常に自分の言葉、想念、行為を反省し、神の心の奥の奥へ入ってゆき、無限なる愛、美、真、善を現わそうと努力する。また同時に人のお役に立つよう自らの意識を自分へのみ向けず、他の幸せや喜び、他への感謝に向ける。それにより自我を乗り越え、欲望をコントロールし、完璧に直観力を身に付け、そしてついには自らに内在せる神聖意識に気づき、目覚めてゆく、即ち守護霊守護神と一体となり、神の子本体を現わすということでしょう。

このためには、出来得る限り自分の周りに祈りや呼吸法により究極の光を重層的に降ろしておくことが不可欠であるということです。これを實現するには、本書ですでに言及している呼吸法が絶大なる効果を発揮

することでしょう。そして、私たちが神そのものに限りなく近づくことと降りてくる光には、ある関係があり、私たちが神そのものに限りなく近づくにつれ、降りてくる光は無限大に増えてくるのです。即ち私たち一人一人が神に限りなく近づくこと自体が、地球の次元上昇に大きく貢献することを認識すべきでしょう。

そして、昌美先生が言われるように、いつかこれらを通じて発するひびきや言葉は、一粒の媒体となり、宇宙神、五井先生の光明エネルギーが、それにさらにエネルギーを与え、そしてそのエネルギーはまず身近から、日本国、そして世界中へと放たれていることを、実感をもって認識できることでしょう。

その時、私たちはいかに世界を平和にする中心者、創造者の一人であったことが理解できることでしょう。

「皆様が祈ったこと、一粒の種、これは永遠に続いていくのです。一粒の種は消えることはないのです。一粒の媒体なのです。私たち一人一人が言葉で、祈りで、印で、マンガラで、果因説で一回放ったものは、ずっとその言葉、ひびきを中心として、そこに宇宙神、五井先生の光明エネルギーが、さらにエネルギーを与え、そしてそのエネルギーはまず身近から、日本国、そして世界中へと放たれていったのです。

これも私には想像もつかなかった現象です。皆様方がいかに世界を平和にする中心者、創造者の一人であったことが。」『白光誌』2014年3月9ページ

新年祝賀祭で行った呼吸法

昌美先生が本年新年祝賀祭で指導された方法は、次ぎの通りです。息を吸う時、心の中で、我即神也を3回唱えながら行い、成就と唱え、息を止めた直後（この成就の唱えはなくてもよい）、人類即也と3回唱えながら、息を吐いていくものです。これを1セットとして49セット行つ。そしてこの方法の息つきに馴れたら、我即神也、人類即也の唱え回数をそれぞれ3回から5回に、さらに7回と増やして出来るかぎり多くの気(宇宙子)を吸い込み、止めて長く息を吐き出す。

今回本年新年祝賀祭で昌美先生が私たちに秒数ではなく、我即神也、人類即神也の唱え回数で指導されました。回数で行う方法を時間換算すると、7回の場合で普通の速度で1セット19秒くらいかかりますので、49セットで15分程度となります。このやり方について、本部に問い合わせますと、今回のやりかたは、新年祝賀祭に限り実施されたもので毎日の神事で行うものとして示されたものではないとのことでした。

本書でお伝えしました呼吸法のしかたは、宇宙子科学メンバーから聞いたもの、即ち我即神也と20秒息を吸い、成就と10秒息を止めて、人類即神也と30秒かけて息を吐くというものを、息を吸って息を止める時に宇宙エネルギーを受け止めることのできる丹田(丹田)に注いで

自分なりにアレンジし、効果のあったやり方をお伝えしました。

宇宙子科学メンバーは、その後昌美先生の御指導で15秒で吸い、5秒間息を止め、15秒で吐くやり方をされていることもお聞きしています。

この呼吸方法を円滑に行うには、息を吸うときも吐く時も肛門を閉め、丹田(下っ腹)の筋肉に力をいれて行うことです。これは肺の呼吸活動をつかさどる横隔膜をゆっくりコントロールして、出来るだけ多くの宇宙子を吸い、受け止め、肉体界のすべてを癒すエネルギー(光)を出来るだけ多く降ろすために行つとお聞きしています。

ここで何故できる限り長くゆっくり吐くかについて、高橋英雄長老導師から貴重なお話をお聞きしたことがあります。

そのお話によると、故斎藤秀雄長老導師が、窮地に陥った時五井先生から「できる限り息を長く吐きながらお祈りをしなさい」とご指導を受け、それを実践することにより、ほとんど夜も風も眠ることができなかつたのが、眠れるようになり、その窮地を乗り越えられたそうです。そして、高橋長老導師もこれを実践され、大きな成果を得られたというお話をお聞きしました。

呼吸法はその基本的な考え方を理解し、それに基づき実践し、その効果を得てはじめて自分のものとなるのではないのでしょうか。

(当項目は平成27年2月追記)